

Title	中堅製薬企業3社の成功要因-環境変化への対応-
Sub Title	
Author	今井日実子(Imai, Himiko) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1995
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1995年度経営学 第1149号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001995-1149

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

今井 日実子
(参天製薬株式会社)

主査 古川 公成
副査 嶋口 充輝
山根 節

所属

古川 公成 研究室

中堅製薬企業3社の成功要因

—環境変化への対応—

日本の医薬品業界はさまざまな環境変化に伴って低成長、競争激化の様相を呈している。特に米国および一部欧州に本拠を持つ製薬企業を中心として、大型の企業買収・合併（M & A）や戦略的提携がさかんに行われ、日本の製薬企業は、21世紀にはわずか数社しか生き残れないとの厳しい予測もある。

このような状況下で、高収益体質を誇る日本の中堅製薬企業3社、小野薬品工業、キッセイ薬品工業、参天製薬の成功要因と強みを分析し、内外の環境変化に適合した戦略転換を考察することで、相対的に小さな資源しか持たない中堅製薬企業が、独立性を維持しながら21世紀に向けて生存・成長するためのてがかりを探った。

分析の結果、1985年から1994年における中堅製薬企業3社の成功要因は、①研究開発型ニッチ戦略の追求、②売上原価率の低さ、③トップマネジメントが掲げた理念の明確さ、の三点に集約された。また、現在起こりつつある環境変化に照らし合わせて考えると、画期的新薬の創出が中堅製薬企業にとっても最も有効な成長の手段であることが導き出された。

ニッチ形成の方法は三者三様であり、①外部資源の活用、②研究開発と営業の整合性、③研究開発への夢、があげられ、これらは画期的新薬創出に示唆を与えるものである。

これらの示唆から、中堅製薬企業が画期的新薬を創出するために、医薬品創造の価値連鎖の中で臨床開発部分を、新分野への進出にはCRO（医薬品開発受託機関）の利用を、自社領域ではMRへの臨床開発機能の取り入れを提言した。